

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校・湯村		
所在地	甲府市湯村3丁目11-10		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 1 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弘法大師による開湯1200年の歴史がある湯村温泉街の中心に位置し、昔ながらの街並みや温泉街の雰囲気を利用者様に感じて頂きながら生活を送ることができる。8月にはふるさと祭り、2月には厄地蔵と伝統ある地域行事が実施され、利用者様にも季節を感じてもらえる環境です。建物屋外1階には足湯が設置され利用者様の楽しみの一つとなっている。施設行事としては敬老会やクリスマス会お花見や納涼会等、その季節に応じた行事を実施することにより利用者様に楽しみや生きがいを感じて頂けるような支援を行っている。生活の中ではその人の残されている機能を使っただけのように家事活動を中心にできる事を行ってらっている。同一建物内には特別養護老人ホームがあり、ご本人様、ご家族様の希望があれば入居可能となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

甲府市湯村の歴史ある温泉街に位置し地元の厄地蔵まつりでは神輿を施設で預かり、祭りを見学したり出店を楽しむなど住民と一体となって参加している姿が見られます。平成20年、複合施設6階の3階に開設し、階下には足湯も整備され、行き交うお客様や、温泉宿の女将さんとの交流が自然と行われ、和やかな雰囲気を感ずることが出来ます。入居者の平均介護度3.3と比較的重度者を受け入れています。車いすの入居者に対しても座ってできる髭剃りや調理など、残された機能を活用し達成感を得る支援を目指しており評価できます。特養を併設している構造であり、屋内のイベントや防災訓練を共同で行い、互いに協力関係を築いています。入居者の安全と生きがいにつながる支援を今後も期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)(※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校・湯村**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

己 自部外		項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名()	実践状況
I. 理念に基づく運営				
				次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心して1日1日を大切に過ごしていただくという理念のもと利用者が毎日安心して過ごすことができるように支援を行っている。顔なじみの関係の中で、1日1日を笑顔で過ごしてもらえるようにその人に合った生活の支援を行っている。	入居者が住み慣れた地域で馴染みの関係者と安心して一日一日を大切に過ごして頂くという理念を職員と管理者は共有し、一日一度は今したいことに注目し付き添い、笑顔が見られるよう利用者のペースを大切にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日や暖かい日には屋外の散歩を行ったり、地域の方たちと顔を合わせる機会を作っている。地域行事や地域のお祭りには積極的に参加し、地域交流を図っている。また地域の保育園や中学校との交流会も行われている。	温泉街に位置し、出かける地域の方が声をかけてくださる事が日常的にある。また、お祭りの神楽を預かっている事も事業者が地域の中で役割を果たしている。保育園児と遊戯や歌と一緒に楽しんだり、中学生はクリスマス会でプラスバンドの演奏や紙芝居をしてくれたり、別の中学生の訪問もあり交流を続けている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事には積極的に参加をし、地域の活動を通して施設との交流を図っている。自治会にも加入して地域の情報を収集している。運営推進会議を通じて地域の代表者と意見の交換を行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2か月に1回会議を実施しており、利用者ご家族様、知見者、民生委員、ほうかつ支援センターが構成員となっている。家族からの意見や地域の方からの情報提供などを頂き、施設運営に反映させている。ご家族様から外出先のおすすめ場所のご案内もあった。	定期的に運営推進会議が開催され、民生委員さんからは地域住民の情報を頂いたり、ご家族からはバスの見頃を教えてください等運営に生かされている。包括支援センターからは、運動や体操の提案を受け、それも利用者の暮らしに生かす事ができサービスの向上につながっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には運営や困難事例相談等を行っている。ほうかつ支援センターにも情報提供や相談を行い、都度アドバイスを頂いている。	入居者の受け入れ状況を報告し、医療ケアの少ない方を紹介して頂くよう連携を深めている。また、生活保護受給者についても金銭面について常に連携を深め、協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3か月に一度実施して現状報告や基本的な身体拘束に対する知識を深めている。法人や事業所においても研修会を実施し身体拘束をしない取り組みを実践している。また言葉による抑制に対しても日常から職員間で注意し合える環境を作っている。	適正化検討委員会には責任者が出席し、発熱時の対応や夜間の巡視、センサーマット等の扱いについて理解を深め、その内容について事業所の職員会で話し合いを持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は行っておらず、センサーマットはコールと受け止め対応している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しての研修会を定期的に行い、周知徹底を行っている。また高齢者虐待に関しての時事問題や報道があった際には会議等で周知を行い、他人事だと思わずに業務の見直し、確認を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している人はいないが、必要に応じて各関係機関と連携を取りながら知識を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には利用者、家族から希望や話を聞きながら契約締結を行っている。施設においての生活での注意点等も説明を行い、同意を頂いてから契約の締結、サービスの開始を行っている。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校・湯村**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部外		項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際や運営推進会議等、家族の意見や要望を都度聞くようにしている。また、利用者からの要望や意見も反映できるように個別に話を聞いて対応している。相談窓口に関しても事業所内に掲示を行っている。玄関には意見箱を設置している。	玄関に設置してある意見箱への投書は少ないが、ご家族が面会に来訪された際にお聞きする機会を設け、季節による衣服の整理や、皮膚トラブルを予防するためのケアについての意見をお聞きするなど、個別に対応し、運営会議に反映している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で事業所の改善点や現状の困っている事などを聞き、改善すべき部分に関しては対応を行っている。また職員会議の場においても提案や意見を募り全体で話し合いながら改善を行っている。	毎月、夜勤者と遅番以外で職員会議を開催。職員から意見や提案を聞く機会を設けている。最近の事例では、洗面所のカランは水色は水、赤はお湯に分かれているが、やけどの心配がありサーモスタットに変更提案があり改善された。全体で話し合いをしながら運営に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内には職員個々の事情によりフルタイム勤務できない短時間労働者の方も勤務している。職員の生活環境の変化や労働条件等、都度話を聞きながら環境整備に努めている。また、資格取得に向けての研修会や勉強会にも参加してもらい、向上心を持って労働できるように支援している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会には積極的に出席してもらい、福祉現場で働く上で必要な知識や技術を身につけてもらっている。また、その基礎知識を現場で直接生かせるようにOJTの中で指導、教育を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲府市北西地域の研修会やネットワーク会議を通じて、意見交換を行っている。新型コロナウイルスの影響で機会は減っている現状はある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には滞在先へ必ず訪問し、本人の思いや希望を聞き施設での生活における不安等の話を聞いている。また、担当ケアマネジャーや本人が利用していたサービス事業所から話を聞くなどして入居後も本人に合ったサービス提供が継続できるように対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には利用者本人の希望を前提に、家族としての思いやこれからどのような生活を送ってほしいかを聞きながら関係づくりに努めている。また在宅でのご本人の様子や現在、家族が困っている事等話を聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族から話を聞くことはもとより、担当ケアマネやサービス事業所からも話を聞き対応している。他サービスが望ましいと思われる事例に関しては法人内、外問わずに提案を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今まで歩んできた生活を施設においても継続して実施できるように支援を行っている。アセスメントの中で本人のできる事、できない事を把握し、生活の中で他利用者とも協力をしながら関係性を築けるように支援している。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校・湯村**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部外		自己評価(実践状況)		外部評価	
項目		ユニット名()		実践状況	
				次のステップに向けて期待したい内容	
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にはご本人が安定した生活を送るにはご家族の協力が必要であることを伝えている。施設に入居することで家族との関係性が寸断されてしまう事がないように支援を行っている。通院に関してはできる限り家族に対応してもらっている。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みのある場所へ外出をしたり、家族と一緒にお墓参りや行きつけの美容室へ行ったりと家族から確認を取りながら馴染みの場所や人との関係性が寸断されてしまわないように努めている。		馴染みの関係を継続するため、友人宅へ訪問される方もいれば、手紙を書いたり、電話で交流したり、家族と受診の際にドライブを兼ね、墓参りをされる方もおり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの中で利用者同士が会話できる環境に努めている。その人に合った生活環境を提供できるように、居室で過ごす方もいるが、食事の際にはフロアへ出てきて一緒に食べる等本人のペースを大切にしながら支援を行っている。			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に関しても相談支援を行っていることを伝えている。また退去後に別サービスへ移行する場合においても法人内外問わず、スムーズに移行できるように情報提供や助言等を実施している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には本人や家族から意向を聞き、把握を行っている。ご本人が訴えることが難しい場合はアセスメントをもとに、本人の表情や行動を見ながら対応を行っている。		本人の思いや暮らしの意向は入居前のアセスメントで把握しているが、暮らしの中で見えてくる事もあり、新聞をしっかり読みたい、脳の活性化のための計算ドリルをやりたいなど意向の把握に努めている。また、意思表示が困難な入居者は、顔の表情や行動からくみ取って対応している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人が歩んできた生活歴や生活環境、仕事歴等を情報収集し、施設での生活においても今までの生活に近づけられるように支援を行っている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の基礎疾患や年齢等を考慮しその人のペースに合わせて生活を送ってもらっている。その日、その時で精神状態や身体状況も変わってくる中で、その時に合った支援を行っている。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時にはご本人、家族から生活についての意向を聞き、計画に反映している。また、生活の中で職員からの情報を基に担当者会議を行い、見直しを行っている。その方の変化のあった場合や家族、利用者からの要望があった際は都度見直しを行っている。		本人がより良く暮らすために、本人のできる事に着目し、家族や関係者と話し合いを持ち介護計画を作成している。車椅子でも参加できるように、調理に工夫をし、喜びとなっている。また、受診の付き添いや物品購入は家族の役割として位置づけている。家族の声で落ち着くことも多く、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所全体で本人、家族の意向や介護計画を共有できるように会議で周知徹底している。日々の生活の記録を毎日記載し、その記録をもとに利用者の現状を知り、介護計画に反映している。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時の状況に応じて支援を行っている。受診や外出等、家族対応が基本となっているが都合がつかない場合は職員が代行を行っている。ご本人、家族の要望に対してはできる限り柔軟に対応するようにしている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校・湯村**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己評価	外部評価	項目	自己評価(実践状況)	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ユニット名() 本人が馴染みのある社会資源をできる限り活用をしたり、会話の中で本人にどういった希望があり、どのような生活を送りたいかという事を把握し、支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に家族と話し合いを行い、もともとの主治医を継続することも可能である事を話し、希望に添えるような形で決めている。その中で法人内のクリニックに移行することも可能であることを伝えている。家族対応で受診する場合は施設での生活の様子を家族へ伝えている。	入居前の主治医の継続を希望される方もおり、希望に沿い、受診時は生活状況を記録した記入帳をお渡しし連携を深めている。なお法人内のクリニックに移行された入居者には、毎月受診の付き添いを行っている。口腔状態も観察し、必要があれば歯科の往診を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で利用者に変化があった場合や看護面で判断が必要な場合は都度相談を行っている。看護師が不在の場合は同一建物内の特養看護師と連携を取っている。受診の判断についても管理者、ケアマネが家族と連携を取り、適切な受診に繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には施設での生活の様子やADLをできる限り早急に情報提供している。病院とも連携を密に取り、退院許可が下りた場合は病院、家族、施設で連携をとって早急に受け入れができるように体制を整えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では看取り介護を実施していないため、入居時にはその旨を家族へ説明を行っている。しかしながら、グループホームでの生活が継続困難となった場合は行き先に困る事がないように法人内外問わずに退去後の支援を行っている。	重度化した場合は看取りの体制が取れていないため、入居時に家族に説明をし了解を得ている。目安として、食事が減少し吸引等医療管理が必要になるなど状態変化を家族と共有している。また、その先の受け入れについては困る事がないよう地域の関係者と連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の研修会の中で緊急時の対応方法、心肺蘇生法やAEDの使い方等の研修会を行い、応急処置、初期対応について訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を行い、地震、火災(日中・夜間)とケースに備えている。備蓄品には地域の避難者のための備蓄も行っている。訓練の計画、報告は都度消防署へ提出し、指導をもらっている。年間の研修会の中でも防災についての講話と水消火器を使用した訓練を行っている。	災害対策については、高層階の建物であり、地震と火災に対応した訓練を行っている。消火栓の使い方や、垂直避難訓練では、毛布にくるんで階段を使用するなど消防に詳しいボランティアの指導を受け実施。ヘルメットやタオル、毛布はフロア内の目に付くところに保管されている。地域の避難者のために、水や食料など1週間分を備蓄し、協力関係を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があるないに関わらず、「人」としての人格を尊重しケアの中心には必ず本人がいる事を職員にも伝えている。その人に合ったケアを実施する中で、不適切な対応や葉かけがあった場合はその都度注意し合えるような環境を整えている。	人格の尊重やプライバシー保護に関しては、ケアの中心は利用者である事を常に職員間で共有し、「トイレ」「おしっこ」等の言葉かけは、分かりやすい言葉と耳元で小声で伝えている。入室についてもロックをし、本人の了解を得るなどプライバシーを損ねないケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常での生活の中で、本人が自己決定できるような環境を作り、職員に本人の思いや希望が相談しやすいように信頼関係の構築を行っている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校・湯村**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

己 自部外	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
		ユニット名()	実践状況
			次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や気持ちを聞きながらできる限りその希望に添えるように支援を行っている。利用者一人ひとりのそれぞれのペースがあるため、個別に把握して実践に繋げている。	
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	ご本人の希望を聞きながら、その日に着る服の決定やその人なりのおしやれができるように支援を行っている。	
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事が楽しみとなるようにその季節や行事の際には特別食を提供し、特別食を作る際には利用者と一緒に料理を行い、食してもらっている。またおやつ作りも一緒に行ってもらっている。	通常の食事は併設の特養で調理されるが、楽しむことが出来るよう季節の特別食を提供している。利用者の誕生日には本人の好きなものを一から皆さんと調理し、お祝いし楽しいひと時を過ごしている。おはぎや柏餅、餃子などできる工程を工夫し一緒に作り、持てる力を活かした支援をしている。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士が作成したメニューで栄養バランスがしっかりと取れている。水分補給がしっかりとできるように本人の嗜好品を含めて水分補給を行ってもらっている。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行い、ご本人ができない場合や不十分な場合は職員が介助を行っている。定期的に歯科の往診があり、口腔状態の確認や義歯の調整を行っている。口腔ケアの方法も歯科医師、衛生士から指導をもらっている。	
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個別に排泄パターン把握している。オムツ、パットの使用をしている人もいるがその状態に応じて大きさや使用を変更して、常に見直しに努めている。	トイレ利用の方は排泄パターンを把握できるだけ失敗を少なくするよう支援し、重度でおむつ使用の方も立位訓練の目標も含めトイレ誘導すると共に交換時間の評価を行い、自立に向けた支援をしており評価したい。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談をしながら便秘薬を服用している方もいるが、牛乳や食物繊維が多い食品を摂取してもらえるように支援を行っている。食事前には体操を行い、便秘薬に頼らないで排便コントロールできるように支援している。	
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴であるが、その時の体調を考慮して入浴を決めている。個々の希望を聞きながら、希望に添えるように個別支援を行っている。	週2回、本人の希望やタイミング、体調に合わせて、個浴や機械浴など個別に支援している。拒否のある利用者に対しては、訴えや話を聞いたり時間を置くだ工夫し、入浴を支援している。季節感を味わってもらうよう、ゆず湯等も提供し、楽しむことが出来る支援を行っている。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の負担のない範囲で日中はできる限り活動的に過ごして頂き、夜間良眠できるように支援を行っている。温度調節や環境にも配慮し、安眠を促している。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の調整は生活の様子を受診時に医師へ相談し、調整してもらっている。服薬時には服薬チェック表を活用しており、職員がダブルチェックすることで誤薬や落下の防止に努めている。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めたかの学校・湯村**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部外	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
		ユニット名() 日常生活の中で家事活動を中心にレクリエーションや行事に参加してもらい生活の中で生きがいや張り合いが見出せるように支援を行っている。	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出は自粛している。受診時には少しでも外気に触れて気分転換できるように配慮を行っている。	最近ではコロナウイルスの影響で自粛しているが、天気の良い日は20分ほどかけて温泉街を一周し、行き交う地域の方と挨拶を交わしたり、パラ園の見学や保育園の園庭で園児と交流するなど、気分転換となっている。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にはご本人、家族の希望を聞きご自分でお金を所持している方もいる。お小遣いとして施設で預かり、金銭の管理を行っている。	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話でご家族様と連絡を取っている利用者様もいる。また、必要に応じてご本人と家族の連絡を職員が仲介している。	
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースは利用者様が安心して居心地の良い空間となり得るように配慮を行っている。プランターでの野菜作りや季節の花を飾る等室内においても季節を感じられる環境を作っている。	共有のフロアは日差しがたっぷり注ぎ、楽しめる場所となっている。それぞれの定位置があり、お茶を飲んだり、趣味や制作を楽しんだり、うたた寝をする方もいて、思い思いに過ごせる空間となっている。書き初めや作品の展示、お花を生けたり飾ったり、季節感を感じられ心地よく過ごせる工夫がされている。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中でもプライバシーを確保して過ごす事ができるようにその人の希望を聞きながら支援を行っている。安全を確保した上で本人の思いや気持ちを尊重して自由に過ごしてもらえるように配慮している。	
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には利用者様の馴染みのある家具や物の持ち込みをお願いし、その人にとって居心地のいい空間作りを努めている。家族の写真や思い出の品等も持ち込んで飾る方も多くいらっしゃる。	入居時になじみの家具や家族の写真、自身のテレビを配置されている。入居前飼っていた犬と同じぬいぐるみを傍に置く入居者もいる。また、思い出深い世界地図を広げたり、新聞を丁寧に読む人もおり、本人が居心地よく過ごせる工夫と支援を行っている。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のできる事とできない事を把握して、安全を確保した上でその人なりの自立した生活が送れるように支援を行っている。	